

## 第5回 安倍川流域委員会 議事要旨（案）

中部地方整備局では、「安倍川水系河川整備計画（大臣管理区間）」を策定するにあたり、安倍川の河川整備の考え方等についてご意見をいただくため、第5回安倍川流域委員会を開催した。

### 【開催日時等】

日時：平成19年3月19日（月） 14：00～16：00

場所：サンパレスホテル 2F

### 【出席者】

大坪檀委員長、齋藤晃副委員長、石川たか子委員、板井隆彦委員、市川一郎委員、遠藤幸雄委員、松永信一郎委員、杉山恵一委員、竹内礼子委員、築地勝美委員、土屋智委員、村上敏委員、村上光司委員、村田雄剛委員、湯浅保雄委員

### 【議事内容】

- (1) 委員の変更について
- (2) 整備の考え方について

### 【議事要旨】

#### 1. 委員の変更について

静岡商工会議所専務理事の清水委員が異動されたため、第3条第3項に基づき委員の補充を行う。静岡商工会議所の後任である鈴木孝治様が委員に選出された。

#### 2. 整備の考え方について

河川整備計画原案提示に向け、現状と課題、河川整備基本方針の説明を行とともに事務局から整備の考え方を提示し、以下の意見、感想、質問などを伺った。

##### 1) 治水について

○大正3年の洪水被害状況について、大被害になったのは破堤の影響だけでなく、土砂により川がせき止められた等の影響もある。この辺をもっと詳しく記載する必要がある。

○霞堤の現状が記載されているが、整備計画においてその対応をどうするのか記載されていない。  
→霞堤については河道水位と背後地の状況を見ながら整備の方向を決めたい。

○霞堤は治水上のヒューズの役目をしている。ヒューズをどうするかを議論するためには下流とのバランスを見直す必要がある。これは非常に時間がかかる議論である。このため、開口部に財産を集中させないようにするなど規制を行うなどの対策も考えられる。

○安倍川の整備に年間どれくらいお金がかかっているのか、市民に分かりやすく情報提示をしていった方が良い。

## 2) 土砂管理について

○河川工事をすると重機により河床が緩くなり、ちょっとした出水でも動くような状態になってしまふ。何か対策はないものか。

## 3) 利水について

○地下水の保全、水循環について、牛妻から下流で表流水が減少するが、伏流水が表流水を減らし、それにより土砂が流れ難くなって河床にたまる。地下水と伏流水と表流水関連性、表流水と河床上昇との関係など河川内の状況について把握していく必要がある。

→水位・雨量データ等を整理していく中で、なんとなくの関係は分かっているが、詳細なメカニズムは解明できていない。

○過去に静岡県で静岡平野の地下水調査を実施してきている。こういったデータを使って地下水の解析を実施していく必要がある。

→地下水の保全とは量的な話と質的な話がある。地下水汚染されると対応が難しい。また、地下構造物により流れへの影響も考えられる。これらに対して適切に対応や指導していくためには地下水管理の観点からのモデル化が必要であると考え。流域委員会では課題を整理していきたい。

## 4) 環境について

○ツマグロキチョウについて絶滅しているのではないか。確認が必要である。

○生物学的に言えば、樹木が生えることにより砂礫に生息する昆虫が減るなど、一概に河道内に樹木を残せば環境に良いとはいえない。人によりいろいろな見方がある。

○油山川でスナヤツメが生息していたが、堤防工事で伏流水が途絶え、干上がってしまい、死滅してしまった。事前に教えてくれたらアドバイスができたはずである。もっと情報を公開すべきである。

○住民の観点から使いやすい川づくりをして欲しい。例えば、水洗トイレの設置など、せっかく税金を使うのならば、みんなが使うようなものにした方が良い。

○えん堤など河川に横断するよう、ブロックを横積みすると吸い込み口ができてしまう。このような場所で子供達が遊ぶと大変危ない。もっときめ細やかな管理をして欲しい。

→直轄管内を巡視し、できるだけ早く危険を察知できるように気をつけている。県とも安全利用点検などで連携している。

→安全管理としてはパトロールを実施している。危険な箇所については地元からの報告を主体にしている。

## 5) 維持管理について

○昔は堤防上の樹木は全て伐採していたような記憶がある。また、近年は河道内のヤナギが樹林化している。河川敷の樹木、堤防上の樹木の管理基準を教えて欲しい。

→堤防の基本断面外であれば樹木を植えても問題ない。現在までに植わっている樹木は水防の観点(木流し工法への利用)や堤体の安全性(根の浸食)を考慮して伐採していない。河川内の樹木は治水を優先して伐採している。

6) その他の取り組みについて

- 「かわせみの声」は非常に分かりやすく良い。こういった取り組みをもっと実施していった方が良い。
  
- 情報提供等について「その他の取り組み」中で一括りされているが、ここに上がっている項目は重要なことであり、「親水」を「治水」、「利水」と並ぶ三本柱の事業としてもっと表に出すべきである。
  
- 一般市民が安倍川でできることを情報提供するなど、今までの議論から一歩出て、市民を川に近づける取り組みを前面に出していく必要がある。
  
- 伏流水を清水に送っているが、その量を減らし、もっと海に流れるようにしたい。  
曙橋、竜西橋、玉機橋などで夜中や洪水時に不法投棄をする人がいる。ホームページにあるカメラを利用して監視の強化ができないか。
  
- 最近、複合型防災という言葉聞くが、例えば地震が起きて堤防が崩れ水害が発生する状況など、なかなか市民に伝わっていない。もっと情報を提供すべきである。また、ハザードマップや避難ルート等の情報を提供する側の人たちも、もっときめ細やかな管理が必要である。
  
- 中電の送電線は川の下を通す計画になりそうである。市民の要望を取り入れられた。このようなケースは初めてではないか。その場所に何か記念すべきものを残したい。
  
- 前回の委員会で議論していない新しい委員会が立ち上げられている。この委員会の役割を明確かするためにも、各委員会の役割分担を明確にして欲しい。

－ 以 上 －